

リニア中央新幹線事業に係る関係市町村長と JR 東海との意見交換会概要

建設部リニア整備推進局

1 日 時 平成 31 年 1 月 15 日 (火) 15:40~17:30

2 場 所 飯田市役所 C 棟 C311、C312、C313 会議室

3 出席者

- <市町村長等> 飯田市、下伊那郡 13 町村、中川村、南木曾町、南信州広域連合
- <長 野 県> 建設部リニア整備推進局長、南信州地域振興局長、飯田建設事務所長
- <J R 東 海> 宇野 護副社長 他 6 名
- <鉄道・運輸機構> 関東甲信工事局次長

4 会議内容（発言要旨）

■懸案事項への対応

●発生土

【市町村】

- 想定外の災害に耐えうる盛土の造成についてはあらゆる面から万全の安全対策をお願いするとともに、地元・下流域地区に対しては、丁寧な説明をすること。（飯田市）
- 建設発生土の活用先をどうしていくかということが課題。造成計画について関係地域の理解を得て事業進捗させるために、新たな着想の必要性も感じている。（飯田市）
- 盛り土計画の第三者による客観的な説明会をお願いしたい。（松川町）
- 発生土を傾斜地に埋めることについて、客観的な立場の講師による講演会をお願いしたい。（松川町）
- 発生土を治山事業に使う等の提案を住民の皆さんにアグレッシブに提案してはどうか。（豊丘村）
- 発生土置き場について早期に話を進めてもらいたい。（大鹿村）
- 半の沢の道路改良の設計等について、第三者委員会においてしっかり検討してほしい。（中川村）
- 地元の心配を解消できるよう地元、関係者へ細かく対応してもらいたい。（中川村）
- 心配は谷埋め盛り土。本社と現場の連携をもっと密にしてほしい。（中川村）
- 発生土置き場について中々場所がないが、地域で場所を見つけていく。（南木曾町）

【JR東海】

- ・発生土に関しては、平成 26 年 7 月に長野県から活用先の候補地をいただき、その後も順次候補地を提供いただいている。
- ・公共事業での活用を含め、約 20 箇所での関係機関や地元・地権者等との調整を進め、現時点で大鹿村内の 3 箇所が確定している。
- ・足りない部分は、引き続き、各市町村長、長野県に新たな候補地をお願いした。
- ・まずは約 20 箇所の候補地をしっかり進め、その上で次の候補地を進めていく。

- ・協議が進んでいる候補地もあるが、県内での発生土の活用先の確保がまだ十分とは言えない。地元との調整や関係機関との協議など責任をもって引続き取り組む。
- ・県や各市町村からは、新たな候補地の情報提供や候補地の確定といったプロセスに引続きバックアップをお願いしたい。
- ・飯田・下伊那地方では、過去に36災害の被害の経験があり、発生土置き場について不安が大ききことは十分に認識しており、地元のお話をよく伺いながら、丁寧に説明を尽くし進めていく。
- ・地域の方と意見交換を行い、発生土置き場をまずまとめることに注力する。
- ・発生土による造成計画の提言に関する新たな着想については、市町村と話をさせていただく。

【長野県】

- 大規模盛土に対する専門家の意見は、アセス・砂防法等法定手続きの中で、専門家の意見を聞いて審査・チェックをしている。
- 法定手続きの前に、住民の不安を和らげるための専門家の講演については、JR東海と話し、それについても可能かどうか考えていく。

●工事車両の運行

【市町村】

- 工事用車両の通行にあたり、生活環境への影響を極力低減するため、地元へ寄り添った万全の対策を行うこと。（飯田市）
- 明神橋の高森側の変則五差路でラウンドアバウト化の工事が始まる。リニアの工事車両の通行について、しっかりと話し合いながら、スムーズな形をとってもらいたい。（豊丘村）
- 飯伊地域全体における工事用車両の交通量を調整するための機関を設け、円滑な交通を確保してもらいたい。（喬木村）
- 西下トンネルの開通により、安全安心な道ができ、大変感謝。（大鹿村）
- 四徳渡(東山)トンネルの大鹿側坑口の崩落に対し、しっかりと対策をしてもらい、感謝。（中川村）
- リニア工事車両について、黄色いステッカー表示の一層の徹底をお願いしたい。（中川村）

【JR東海】

- ・工事車両の運行ルートへの提示、通行日時の配慮等は、引き続き地元の意見を丁寧に伺い、真摯に受け止め対応する。
- ・約1年前、松川インター大鹿線において、四徳渡(東山)トンネルの出口付近での土砂流入という事象が発生し、地元の方々には大変ご迷惑をおかけしたが、その後工事は順調に進み、先月15日に西下トンネルが無事開通した。
- ・四徳渡トンネルも、3月末の開通に向けて工事を進めていく。

●環境保全対策

【市町村】

○住民との連携を大切に、防音防災フードの設置について早期に結論を出すこと。（飯田市）

○地域住民の住環境、自然環境に配慮した工事となるよう、なお一層万全の対策を講じること。（飯田市）

○地下水等水資源調査結果を速やかに公表するとともに、水枯れに対する具体的な対応方法の早期提示をしてもらいたい。（飯田市）

○水道の問題は、広瀬、蘭、妻籠の3地区の水源の下をトンネルが通る。事前にしっかり対策を取り進めること。（南木曾町）

○水の問題は早めに方向性を出していただき、すっきりした形で進めたい。（南木曾町）

【JR東海】

- ・騒音対策は、防音壁を基本に、沿線の住居の張付状況や病院や学校などの施設の有無など現地の状況に合わせて発生源対策、個別家屋対策、土地利用対策について総合的に判断。
- ・現地の状況を踏まえた騒音対策を、長野県のみならず全線において同じ考えでお示しており、引き続き丁寧にご説明させていただく。
- ・南木曾町妻籠水道水源保全地区等の水資源問題も、知事同意に付された条件に対し真摯に対応。
- ・水資源の保全は非常に重要だと認識している。

■関係機関との連携強化

●現地体制強化

【市町村】

○住民の方とのコミュニケーションが必要、担当の職員の方を多く張りつけていただきたい。（阿智村）

○機構とも相談しながら、地元住民との常日頃の話し合いについて、机は用意するので2週間に一回各地域で打合せをお願いしたい。（阿智村）

【長野県】

- ・JR東海では、一昨年前に飯田の工事事務所の職員をかなり増員、また、昨年7月に大鹿の分室、飯田の工事事務所を増員するなど、体制強化を図っていただいた。
- ・住民の皆さんと顔の見える関係をしっかり作って欲しい、まだまだ充分ではないという意見。

【JR東海】

- ・平成30年7月に現地事務所の要員を3名増強し、全体で50名体制。今後、工事発注の進捗により長野工事事務所の体制を充実させる。

●情報提供

【市町村】

- 下市田ガイドウェイヤードの造成工事や取付道路等の工事スケジュールの早期提示。（高森町）
- いつまでに移転が必要となるかスケジュール感が見えるよう検討をお願いしたい。（喬木村）
- 当初の説明会での全体のスケジュールと違ってきているので、スケジュールの見直しをして、説明をお願いしたい。（大鹿村）
- ろくべん館周りの敷地造成に感謝。総合グラウンドについても工事スケジュールに沿ってお願いしたい。（大鹿村）

【JR東海】

- ・県内の工事進捗状況等について、長野県内の工事の進捗状況は、各所の工事契約の手続きが進み、南アルプストンネルをはじめとして工事が本格化。
- ・南ア長野工区では、大鹿村の除山非常口、小渋川非常口で斜坑の掘削を進め、小渋川非常口は、斜坑の掘削を完了後、今年の秋頃には、先進坑の掘削に移行する。
- ・長野県駅は、昨年より用地測量や物件調査を進め、先月、用地補償の説明会を開催し、今後、準備が整い次第、地権者と用地交渉を進める。
- ・個別のスケジュールについては、当初の計画に比べて想定通り進んでいないところもあるが、これからの工程の中で取り戻していく考え。
- ・地元への情報提供の重要性については十分理解しており、関係する自治体はもちろん、地元の皆様に対しても丁寧な情報提供を心がける。

●地元への説明

【市町村】

- 地元関係者の理解と協力を得るために、きめ細やかな配慮と住民に寄り添った責任ある対応が必要。（飯田市）
- 更に地域に入り込み、住民目線で丁寧な説明をお願いしたい。（松川町）
- 文書で締結していかなければならないものもあるので、綿密に地元と打合せをお願いしたい。（阿智村）
- まだ、対策委員会をつくっていないので、今後色々要望等があると思われるが、迅速な打合せ等をお願いしたい。（下條村）
- 打合せを密にし、トラブルが起こらないよう、十分な支援をお願いしたい。（下條村）
- JR東海の皆さんには、豊丘村の様々な行事に参加してもらいコミュニケーションを取り、話をしてくれていると感じている。（豊丘村）
- 大鹿分室の方は一生懸命、地元対応をしている。（大鹿村）
- 住民と分室で話した内容等が、中々次に進まない。回答が遅れると、不信感が生まれるので、スピード感を持って対応してもらいたい。（大鹿村）
- 住民が納得できる丁寧な説明をお願いしたい。（中川村）

【JR東海】

- 工事にあたっては、工事の安全、環境保全、地域との連携を念頭に進めており、地元での工事説明会において、工事車両の運行や安全管理に関する事など、具体的にご説明し、工事を進めるよう心掛けていく。
- 必要があれば、これまでご説明してきた内容について文書を取り交わすことも考えており、例えば大鹿村では南アルプストネルの工事に際し、そのように実施させていただいている。
- 引き続き、説明会等における丁寧な対応を心がけてまいります。

■地域振興への協力

●観光振興、地場産業活用

【市町村】

- 二地域居住をする人等を念頭にリニアの定期券や自由席の検討。（高森町）
- 飯田線をどのように活用していくかJR東海の考えを示してもらいたい。（高森町）
- 観光面において、村としてもしっかり取り組んでいくので、JR東海側においても対応をお願いしたい。（阿智村）
- 飯田線を活用した観光ツアーの実現。村観光協会と連携して、改めてご協力をお願いしたい。（大鹿村）
- 今まで以上に地元事業者の活用、受注機会の拡大に向けた支援をお願いしたい。（飯田市）
- 村内業者が工事に係わることができ大変感謝。（喬木村）

【JR東海】

- 開業後はもちろんのこと、開業までの間においても、地域の魅力をアピールしていくことは、大変重要なことであると考えており、鉄道事業者の立場から、旅行商品の企画、販売、宣伝を通じて、そのような役割を担っていきたい。
- 喬木村においては、村の発注のもと、ガイドウェイヤードの附帯設備工事、調整池等を地元業者と工事契約をされており、今後、整備を進めていただく。

■その他

●地元負担の軽減

【市町村】

- ガイドウェイヤードに関連した道路等への財政支援をお願いしたい。（高森町）
- 飯田線と交差する道路や水路の工事が非常に高額。通常の工事と変わらないような費用でお願いしたい。（高森町）

■まとめ

【長野県】

- 一通りご意見等いただいた中で、発生土の問題が大きいと感じた。
- 今日いただいたご意見ややりとりについて、概ね2月中に知事が直接JR東海の金子社長に伝える機会を設けていきたい。